

# 第1章 概況

## 第1節 地勢

本県の中央部よりやや北寄りに、中国山地が東西に走り、これによって、県土は南北に分かれ、南は瀬戸内海傾面を、北は日本海傾面を形成している。この背景部は、播但高原を形成し、東へ伸びて丹波高原に連なり、また、神戸市の北部を六甲地壘が東西に走り、明石海峡を経て淡路地壘の北部に続いている。淡路地壘は、島を縦断して、対岸の紀伊半島に伸び和泉山脈に接続している。南部は、播但高原から南に流れる諸河川などから播磨平野が、また、武庫川などからなる複合三角州は武庫平野となっていずれも広大な産業、文化活動の舞台を提供している。これに対して、北部は、細長い谷底平野で自然に恵まれている。

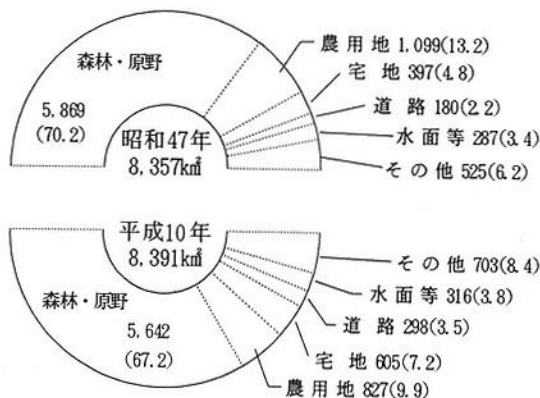
## 第2節 人口

本県の人口は平成12年1月1日現在で555万5,121人であり、全国の人口の約4%を占めている。本県の人口は昭和30年代後半から十数年間にわたって、毎年5万人以上の増加が続いたが、この傾向は昭和50年から急速に鈍りはじめ、以降、兵庫県南部地震のあった平成7年を除いて、ほぼ2万人台の増加で推移している。

## 第3節 土地利用

土地利用についてみると、平成10年においては、宅地（住宅地、工業用地、その他の宅地）が7.2%を占め、森林・原野67.2%、農用地9.9%などとなっており、都市的利用に供される宅地及び道路の面積は県域の約10.7%に達している（第2-1-1図）。

第2-1-1図 土地利用の推移



(注) 1. ( )内は構成比 (%)  
2. 土地利用の各地目区分は兵庫県国土利用計画（第3次）の定義による。

なお、都市計画法に基づく都市計画区域は、平成10年度末現在において、総面積約41万6千haであり、県の約50%に及び、このうち、市街化区域は約7万ha、市街化調整区域は約20万haであり、未線引き区域は約14万6千haである。

また、農用地の転用は、平成10年には368haであり、前年に比べて19%減少している。過去の推移をみると、昭和44年から昭和48年にかけては年間1,000ha以上の農用地が転用されていたが、昭和50年以降おおむね400~600haで推移している。

## 第4節 社会・経済活動

### 第1 産業活動

県域における産業活動についてみると、まず、製造業については、平成10年の製造品出荷額等は14兆4,054億円であり、前年に比べて5.2%減少した。

農業については、平成10年度の農業粗生産額は1,782億9,200万円であり、前年に比べて4.0%減少した。

林業については、平成9年度末の民有林の面積は53万2,501haであり、前年に比べて0.1%減少した。

水産業については、平成9年度の海面漁業の漁獲量は7万9,937tであり、前年に比べて12.2%増加した。

### 第2 水・エネルギー使用

県域における水使用の実態をみると、平成10年度の上水道の年間給水量は、7億4,775万m³であり、前年度に比べて0.1%増加した。

また、平成10年度の県域における消費電力量をみると、2,673.6万MWhであり、前年度に比べて1.0%減少した。また、平成10年の県域における都市ガス消費量（消費熱量）をみると、19兆1,735億Kcalであり、前年に比べて2.8%増加した。

### 第3 交通

鉄道利用についてみると、平成10年度は1,649,004千人（乗車数）であり、前年度に比べて2.1%減少した。

自動車保有台数（自動車登録台数）についてみると、平成11年度末現在3,449,492台（原付含む）であり、前年に比べて0.8%増加した。自動車運輸（旅客自動車運輸）についてみると、平成10年度は373,978千人であり、前年に比べて1.5%減少した。

自動車運輸（トラック輸送t数）についてみると、平成9年度は236,568千tであり、前年度に比べて2.7%増加した。フェリー（利用台数）についてみると、平成10年度は1,332,684台であり、前年度に比べて71.5%減少した。